



編集・発行  
 日蓮宗 能勢妙見山  
 広報部  
 〒563-0132  
 大阪府豊能郡能勢町野間中  
 電話 072-739-0329  
 FAX 072-739-2883

4月20日 **開** **運** **祭**

新年度になり職場も学校も新たな出発の月となりました  
 大きな希望を持っている人 ちょっぴり不安を感じている人  
 妙見様は人生という道を安心して進めるよう見守って下さいます

〔4月の主な行事〕

★月例祈願法要 15日(金) 13時

☆開運祭 20日(水) 終日

この日限定の「勝利開運之守」を授与します

★鷓鴣月例祭 22日(金) 15時

ご祈禱を受けた方には火伏せの黒札を授与

☆星嶺祭 29日(祝)

10時受付開始 11時頃子供祈願大法要

子供の成長を祈る祈願大法要です

参加の子供には御祈禱札・御守り・記念品を授与

〔5月の行事予定〕

★妙見大菩薩年大祭 15日(日) 11時

修法加持特別祈禱を厳修 事前受付中です

★鷓鴣月例祭 22日(日) 15時

●写経会・清掃の日・星嶺演奏会・茶論は当面の間休止

○諸行事は社会情勢により変更する場合があります

◎ご祈禱・ご回向等は

郵便・FAX・メールでも受付けています

◎写経はご自宅でもできます お問合せ下さい

○出会いの鐘巡りは「ひらがなあつめ」に代えて実施中

○登山カード押印は休止

○送迎車の運行は休止しています

◆ケーブル&リフトは水・木が定休日です。ただし桜の時期など例外があります。詳細は能勢電鉄へお問い合わせ下さい。(TEL 072-792-7716)

# 思いやりの心

箕浦 溪介

春になり寒さが和らいでくると、花粉症がきつくなる。私の症状が始めたのが身延山在学中である。

身延山は春になり風が吹くと大量の花粉が飛んで一面に黄色い霧がかかったような状態になり、お堂を繋ぐ廊下は黄色い絨毯を敷いたかのような光景となる。もはや悪夢である。まさか能勢でも同じ光景を見る事になろうとは……、悪夢の再現というしかない。

花粉症は最近になっての病気である。50年近くも前に木材需給が逼迫し、それを補う為に大量のスギ人工林が全国各地に植えられた。しかし、かつて高値で取引された木材は海外からの安価な輸入材に取って代われ、伐期を迎えても伐採されない大量のスギ人工林が花粉症の背景にある。

アレルギーは1960年代より急増し、今や日本人の3人に1人が何らかのアレルギーに罹っているといわれている。その病原のアレルゲンは1000種にも上り患者も増加の一途とか。

コロナ禍になり、最近あまり見かけなくなったが「県外ナンバーですが、県内在住です。」と書いてある張り紙を見かけたことがある。そういえば県外ナンバーへの嫌がらせがあったというテレビの報道があった。また、「私は花粉症ですよ。」という、バッチを配布している所もあるという新聞記事も読んだことがある。

以前にはなかったと思うが、他人のくしゃみや気がなる人が八割もいるそうで、かく言う私も花粉症なので肩身の狭い思い、やるせない気持ちになることがある。中にはマスクに直接「私は、花粉症です」と書いているという人もいるという。見

聞きするたびに世知辛い世の中になったなあと思う次第である。

仏典に、和顔愛語（わけんあいご）先意承問（せんいじょうもん）という言葉がある。和顔は柔和な表情、愛語は思いやりあふれた言葉をかけてのこと。先意承問は、相手の心に思いを巡らせて寄り添うことである。いつでも相手の事を思いやれる心こそ、いまでも大事な事なことではないだろうか。



## 《法華経に学ぶ現代》

～純智庵～

### 唯願わくは

親が子供を捨てるのか

子供が親から逃げるのか

今や親子は断絶時代

### 他方に

だけと切れぬは親子の絆

### 在しますとも

たとえ遠くにあったとて

### 遙かに

心の奥底 あるものは

### 守護せられよ

愛してやりたい 愛したい

なれば

『勸持品第十三』

心素直になれと説く

## 仏教まめ辞典

### 嘘も方便？

法華経第2章「方便品」では、法華経以前に仏が説いた教えは全て方便の教えで真実ではないと明かされます。真実でなければ嘘なのかと考えてしまいますが、実は大きな違いがあるのです。一言で言うと、利己か利他かの違いです。

「アイスクリーム、まだあった？」と小さな子に聞かれて、自分が食べたいから「もうないよ」とこたえるのは利己、つまり嘘です。対して、子供が食べ過ぎてお腹をこわすといけないので「もうないよ、また買ってこようね」と応えるのは利他、方便です。仏が方便の教えを説かれたのは、難解な法華経を真実とはいえず、私たち衆生にいきなり説いても誰も理解できず、逆に興味を失ってしまっただけなので、まずは聞く耳を持たせるため、つまり私たちのために説かれたのです。